1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4570200917
法人名	医療法人 誠心会 マドコロ外科医院
事業所名	グループホーム 小松原
所在地	宮崎県都城市小松原町1161番地3 (電話)0986-26-0530

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月27日(水曜日)

【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.4

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	20,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	5名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.8歳	最低	73歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	マドコロ外科医院、柴田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>都城市の市街地で国道より約100m入り込んだ静かな所にある。周りには医療・福祉関連施設も点在し、商店・レストラン類も近くにある。公民館活動として、行事に積極的に参加して家族、ボランティア、地域住民にも喜ばれている。母体法人の医院に隣接しており、職員も明るく支援して信頼関係を築いている。設備面では、2階建てで明るく個室も広く家族も宿泊でき、ゆったりとした空間がある。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「ホーム便り」の作成に向けて、個人別にアルバム帳を作っている。鍵をかけないケアの実践については、建物の構造上、鍵をかけているが、職員の余裕時や利用者が精神的に落ち着いている時には鍵をかけない時間を作るよう心掛けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、計画作成担当者を中心に全職員で、自己評価を行って取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、実施されている。メンバーには利用者、家族、管理者、職員、公民館長、市職員担当者、自治会、時には老人会、社会福祉協議会の人々が参加し、ホームの報告、各種行事へ参加報告などされる。また今後の地域の行事、祭り、催しなど情報を得て積極的に参加している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議で、家族に参加してもらい意見や要望、不満等を出していただくようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議で得た情報をいかして地域のふれあい祭りや夏祭りに参加している。ホームの行事に自治会、老人会、幼稚園の人々が参加されたり、ホームに立ち寄られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一緒に笑い合い、喜び 悲しみを共有し、ゆっくりのんびり、人間らしい気持ちのままを表現できるように支援することを理念としている。。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げて、それを毎日のミーティングや職員会議等で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の交流の中でいろいろな地域の各行事の情報を得て、それに参加している。最近地区の祭りに参加している。また地区の老人会や幼稚園の人達が時々ホームに立ち寄っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価、外部評価を共有しており、(コピーして閲覧)各自の質を高めるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーには民生委員、公民館長、社会福祉協議会職員、家族会3~4人、市役所職員など交え2か月に1回開催している。そこでの意見を受けて、ケアプランの計画を立て直したり、行事計画を立てたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者と連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時には、利用者個人のアルバムを作成しており生活ぶり、健康状況等報告説明している。金銭出納簿も家族に必ず報告して見てもらっている。	○	金銭出納帳は家族が見られたら、家族の確認印かサインを受けるようにしてはどうだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に、出していただくよう働きかけている。また家族の来訪時、意見を聞くよう努めているが、意見は少ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため職員の移動はほとんどない。職員や臨時職員を十分に確保し職員が業務に負担を感じることなく、利用者へ質の高いケアができるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等を考慮しながら、研修参加の機会を確保している。受講したい研修があれば、勤務に支障がない限り参加している。臨時職員に対しても同じである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では特に実施していない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は今までの主治医の所見や家族の意見を聞き、ホームの内容を説明して家族等と相談しながら、サービス支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが主役になれるように、喜怒哀楽が自由に表現できる暮らしが送れるよう支援している。職員は、利用者から生活の知恵、昔の慣わし、方言など生活を共にして良い暮らしを学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の毎日の行動、暮らしぶりから意向の把握に努め本人本位の生活になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てる前に利用者家族にホームに対する希望や生活習慣などを聞いて計画を立て、説明して同意を得ている。また、介護計画に同意を得られない場合は立て直しを行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3か月に1回に介護計画の見直しを行い、利用者の心身状態に変化が見られる場合は、利用者家族、関係者と話し合い計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩や買い物と一緒にいたり、時にはレストランで食事をしたりなど柔軟に対応している。家族の宿泊も自由にいつでも出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、利用者や家族が望む「かかりつけ医」を確認して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最後の看取りまでは現在行っていないが、入居時、主治医を含め説明と同意を得ており、状態悪化した場合は併設医院にて迅速に対応している。また本人、家族の望まれる病院や施設等へ行けるような環境作りをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性、生きてきた背景、性格などに配慮して言葉かけを行っている。起床、食事、入浴、レクリエーション等の参加など声かけは行うが、無理強いせず利用者の意志に任せている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れ(起床、食事、入浴)は一応決まっているが利用者一人ひとりのペースに合わせて、希望に沿った生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備をいっしょに手伝っていただいたり下膳についてもしていただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は一応決まっているが利用者の好みの温度、時間は体調に合わせて利用者のペースで入浴ができる。各室に浴室があるので一人でくつろいだ入浴ができ、プライバシーに配慮した入浴が出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳や下膳、花の水やり、自室の清掃等職員と一緒にやっている。そのほか買い物、散歩、近くのレストランでの食事など気分転換やストレスの発散ができるようにしている。2か月に1回は、近くの美容室に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に散歩に出かけたり、買い物、外に出たい希望がある場合その都度出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建の構造上玄関には鍵をかけている。	○	鍵かけない工夫をしてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主避難訓練を実施している。災害の時のために、水、食料の備蓄を行っている。	○	自治会等との協力体制がつけられるよう働きかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、活動状況、体重の増減を見ながら摂取量を調整している。水分は必ず毎食事、おやつの際に提供し、好みに応じて、コーヒーやスポーツ飲料水等で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時季の草花を飾ったり、月々に応じた壁画、ちぎり絵、習字、などを利用者と一緒に作成して季節感、生活感を取り入れ居心地良く暮らせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、生活用品などを自由に持ち込んでもらい、安心して過ごせるようにしている。テレビ、椅子、ベットなど慣れ親しんだ物を使用してもらっている。		